

平成30年12月14日（金）

討ち入りの日。

赤穂事件（あこうじけん）は、18世紀初頭（江戸時代）の元禄年間（元禄15年12月14日）に、江戸城松之大廊下で播磨赤穂藩藩主の浅野内匠頭（あさのたくみのかみ）長矩が、吉良上野介（きらこうずけのすけ）義央に斬りつけたとして、切腹に処せられた事件。さらにその後、亡き主君の浅野長矩に代わり、家臣の大石内蔵助良雄以下47人が本所の吉良邸に討ち入り、吉良義央等を討った事件を指すものである。

この事件は、一般に「忠臣蔵」と呼ばれるが、「忠臣蔵」という名称は、この事件を基にした人形浄瑠璃・歌舞伎の『仮名手本忠臣蔵』の様々な作品群の総称である。これら脚色された創作作品と区別するため、史実として事件を述べる場合は「赤穂事件」という。

時は元禄、生類憐みの令でおなじみの5代将軍綱吉の時代。側用人柳沢吉保が政治をわがものにしていた。その安寧を突き破る武家諸法度を地で行く忠、孝、礼を大事にするこの「忠臣蔵」事件の出来事は、民衆の盛大なる支持を持って迎えられたこと想像に難くない。

といったところで、学生諸君の何人が赤穂浪士とか、討ち入りとか、忠臣蔵とか知っているのか定かではありませんよ。それが、12月14日であったといったところで、違う国の出来事と思ってもしょうがないくらいでありますね。

ところが、大学で国立劇場などというところに歌舞伎、浄瑠璃などを見に行く習慣ができる部活動などに入るとにわかに間近なものになるのは疑いなくもありません。

そのうちに、「成田屋」とか「音羽屋」とか、大向こうをうならせる声掛けをする輩になることもあるのです。



「大序」を描いた錦絵 左から塩冶判官 桃井若狭之助 高師直 顔世御前